

■ グリーンプラスの提供する主要サービス

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <p>1 カーボンオフセット</p> | <p>国内森林整備による環境省オフセットクレジット制度(J-VER)、京都クレジットによるカーボンオフセットを、企業イメージとニーズに合わせてご提供します。</p> |
| <p>2 環境方針コンサルティング</p> | <p>既存の経営方針や社会環境動向と整合性を図った上で、ステークホルダーに対してあるべき方向性を表明する、中長期環境方針の開発。ISO14001の意図を踏まえつつ、それを補完し発展させた、低コストの環境マネジメントシステム「エコステージ」認証取得コンサルティング 他</p> |
| <p>3 エコロノマーコンサルティング</p> | <p>環境関連商品に基づくターゲット顧客層の特定分析。製品やサービスに影響を与える社会の環境トレンド分析と商品へのフィードバック。原材料のグリーン調達や、国産間伐材の利用支援、カーボンオフセット付き商品の企画 他</p> |
| <p>4 GHG排出量の測定・削減代行</p> | <p>事業所・生産拠点、製品・サービス、またはイベント活動などのGHG排出量のLCA(ライフサイクルアセスメント)算定を、国家資格であるエネルギー管理士が、国際的な基準(GHGプロトコル)に基づいて正確に詳細に算出 他</p> |
| <p>5 省エネルギー対策への対応</p> | <p>2010年4月から施行される改正省エネ法への対応として、エネルギー使用量を本部で一元管理が可能なASPサービスの提供、電力消費を改善する天井照明用反射板「MCPEt a」の販売・施工、中長期省エネ計画書作成代行、省エネルギー診断やエネルギー管理士による改善指導 他</p> |
| <p>6 森林・林業の認知向上</p> | <p>パブリックリレーションの訴求ポイントの調査開発。林業体験をベースにした、山村での新人研修の企画・運営。環境に配慮したセールスプロモーションキャンペーンの企画開発。環境報告書、CSR報告書の作成支援、プレスリリースの作成支援・配信代行 など。</p> |

会社概要

商号：株式会社グリーンプラス 英文 Green Plus Co.,Ltd.

本店：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-7 日本文芸社ビル 9F

出張所：〒018-3331 秋田県北秋田市鷹巣字西屋敷 2

URL：green-plus.co.jp **グリーンプラス** **間伐** **検索**

役員：代表取締役 飯田泰介 取締役 高崎智子 取締役 松本哲弥

設立日：平成 21 年 12 月 17 日

資本金：1,900 万円

取引銀行：三井住友銀行、八千代銀行

カーボンオフセットによる 付加価値の創造

green-plus.co.jp





Reduce the Emission



Save the Polar Bear

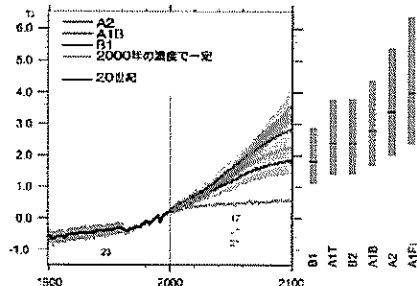


Think Globally



ポイント・オブ・ノーリターン

国連 IPCC (気候変動に関する政府間パネル) の第 4 次報告書では、温暖化の原因をほぼ CO2 などの温室効果ガス (GHG) の増加であると断定しており、このまま GHG の排出を続けられれば、ポイント・オブ・ノーリターン (後戻りできなくなる地点) が 5 年でおとずれると警告されています。大気中の CO2 濃度はこの 1000 年の直近 10 年で急激に上昇しています。今後、私たちの選択次第で +6°C ~ 1°C の上昇が起こるだろうと予測しています。

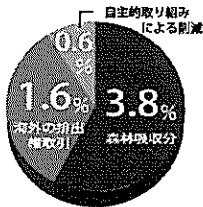


1900 年から 2100 年までの世界平均地上気温の上昇 (観測と予測)

森林は大切な CO2 吸収源

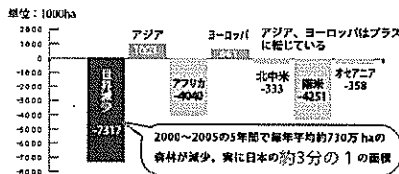
CO2 排出削減努力と同時に、森林にも同等の意識を向けましょう。地球上で唯一の CO2 吸収源である森林は、年間 730 万 ha という勢いで減少しています。

日本は京都議定書第一約束期間の 2008 年から、1990 年比で毎年 -6% の実現を公約しています。この -6% のうち、3.8% は森林による吸収分に当たります。



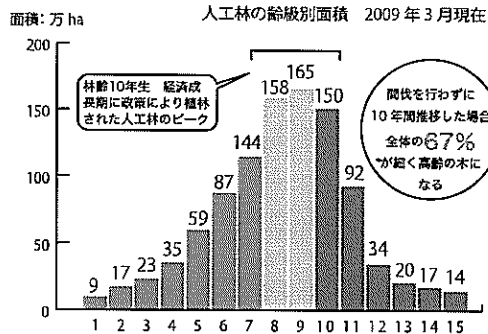
※-6%の内訳

2000 年から 2005 年までの世界の森林減少面積



2000~2005の5年間で毎年平均約730万haの森林が減少。実に日本の約3分の1の面積

国内森林に必要なのは間伐

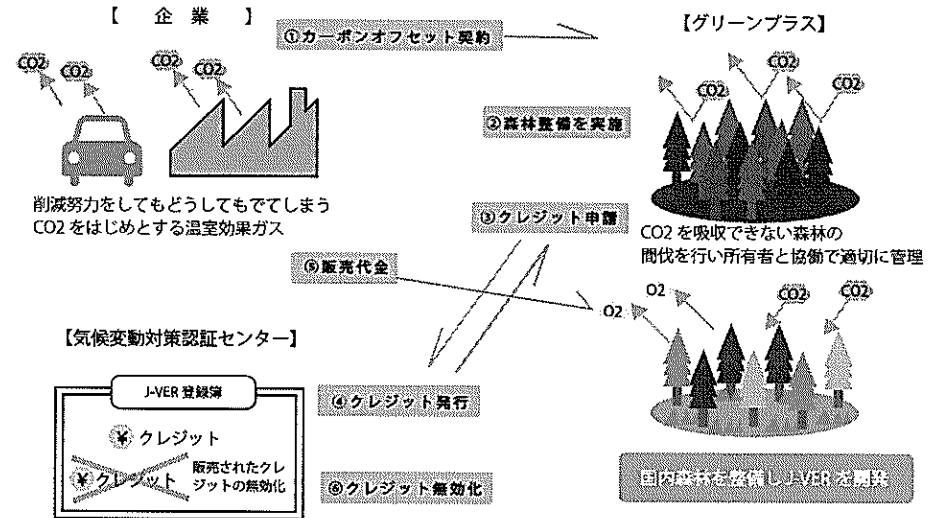


資料：林野庁業務資料 齢級は林齢を 5 年ごとに区分したものを示す
成長に必要な林齢の若い木 10 年後に林齢 9 ~ 10 年に整備が必要な木 林齢 10 年以上の今、整備が必要な木

国内の森林面積は 2512 万ヘクタール。そのうち 45% にあたる 1140 万 ha が人口林です。人口林は適切に間伐を行い、光が差し込むようにしないと下草も生えず、幹も太くなりません。こうした間伐は樹齢 45 ~ 60 年までにしないと手遅れとなります。日本が 1950 ~ 60 年にかけて大量に植林した人工林は、今すぐにも間伐などの整備を必要としています。

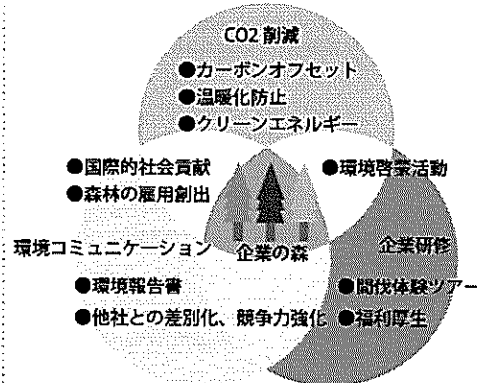
グリーンプラスと J-VER

環境省はカーボンオフセットの推進に向け、国内における信頼性の高い認証制度を目指したオフセット・クレジット制度 (J-VER) を 2008 年 11 月に立ち上げました。間伐促進や、持続可能な森林経営促進などによる CO2 吸収量を認証し、その吸収量に応じ J-VER クレジットが発行されます。



グリーンプラスの開発した J-VER クレジットを調達した企業は、間接的に間伐整備を行ったとされ、地球温暖化防止・生物多様性保全・国内林業再生への貢献といった、コベネフィットを実現することになります。

【企業の森で CSR を実現するグリーンプラスのフォレストプロジェクト】



持続可能な企業の象徴として、「企業の森」を持つことができます。貴社の発展とともに成長し、豊かになる森。そこには企業の歴史が刻まれてゆきます。

- ネーミングライツ** 該当する森林のネーミングライツを企業に提供します。接道のない場合には林道を整備し、道路の入り口には企業の看板を設置します。Web での企業名検索でも、グーグルマップ上にネーミングされた森林が表示されます。
- 森林の活用** 企業はこの森林を、間伐体験・研修・森林セラピーなどにご活用いただけます。既存ガイドラインに沿った CSR 報告書とは一味違うコンテンツとなります。
- J-VER クレジット** この森林経営からもたらされる J-VER クレジットは、グリーンプラスで他社へ販売して収入にすることも、無効化し自社のカーボンオフセットに利用することも可能です。
- 様々なメリット**
 - 国際的社会的貢献
 - SRI の向上
 - 持続可能な企業基盤を構築
 - ステークホルダーとのコミュニケーション向上
 - 他社との差別化競争力
 - 環境人材の強化育成